# 『小麦「福井県大3号(ふくこむぎ)」の普及推進』

三福井県=

### 【全体概要】

福井県立大学で育成された「福井県大3号」は、梅雨前に収穫が可能であり安定した品質・収量が見込める。パン等への加工適性を高めるためには穂肥を多く施用してタンパク含量を高める必要があり、生産現場からは穂肥施用の省力化が求められている。そこで穂肥施用省力化技術を確立し、本品種の特徴を生かした商品開発を通して、県産小麦の需要拡大を図る。

## 新品種・新技術等の概要

#### 【福井県大3号の概要】

- ・福井県立大学で開発された小麦新品種
- ・6月上旬に収穫時期を迎え、梅雨前の収穫が可能

#### 【穂肥施用省力化技術の確立】

- ・技術目標 タンパク含有量12%を安定して確保 追肥作業回数を2回から1回に削減
- ·実証試験の内容
- 小麦用緩効性肥料+4月上旬に実肥(硫安)を施用 大麦緩効性肥料(現行肥料)に、石灰窒素を追加
  - +4月上旬に実肥(硫安)を施用
- ⇒生産性やタンパク含有量を基に普及技術を検討



収穫期の福井県大3号



越冬前の実証圃場の様子

#### コンソーシアム候補の体制図

連携 ・生産方針への反映 実需者 (製パン・菓子業者、・小麦の特性分析

- 飲食店等) ・商品の試作、開発
- ·加工特性評価

県食品加工研究所、製粉業者 ・小麦の特性分析 ・商品開発への助言

福井県立大学(育成者)

県農業試験場、担当課

- ・技術実証への助言
- ・特性に関する助言

担当農林総合事務所 ・産地指導 ・現地実証圃の設置

実証等協力依頼

産地JA、生産者

・実証圃設置への協力

## 実績と今後の展開

○平成28年産作付面積136ha、平成29年産作付面積160ha、平成30年産作付面積200ha(見込み)と徐々に作付が拡大。

〇実証試験の成績検討を行い、穂肥施用省力化技術の選定と普及を進めることができた。学校給食への試験導入では、食育の観点から栄養教諭からも評価を得ており、本格導入に向けて検討を進めた。

〇県関係部署、県立大学(育成者)、産地JA、実需者からなる県産小麦利用拡大協議会を通じ、福井県大3号の需要拡大、特性を活かした商品開発について情報共有を図り、コンソーシアム候補の形成をすることができた。

〇県産小麦利用業者のさらなる掘り起しとPR活動を進め、福井県大3号の需要拡大と県内認知度の向上を図る。

## 主な取組内容

### 【栽培技術の検討】

- ·実証圃設置検討会の実施
- 【産地と実需者のマッチング】
- ・県産小麦利用拡大協議会を通じた情報共有
- 実需者等関係機関による商品求評会の開催
- 【コンソーシアム候補地形成活動】
- ・福井県大3号を使用した学校給食向けパン・ 麺の試験導入
- ・学校給食関係者による県産小麦利用に関する 意見交換会の実施



福井県大3号を活用した商品求評会